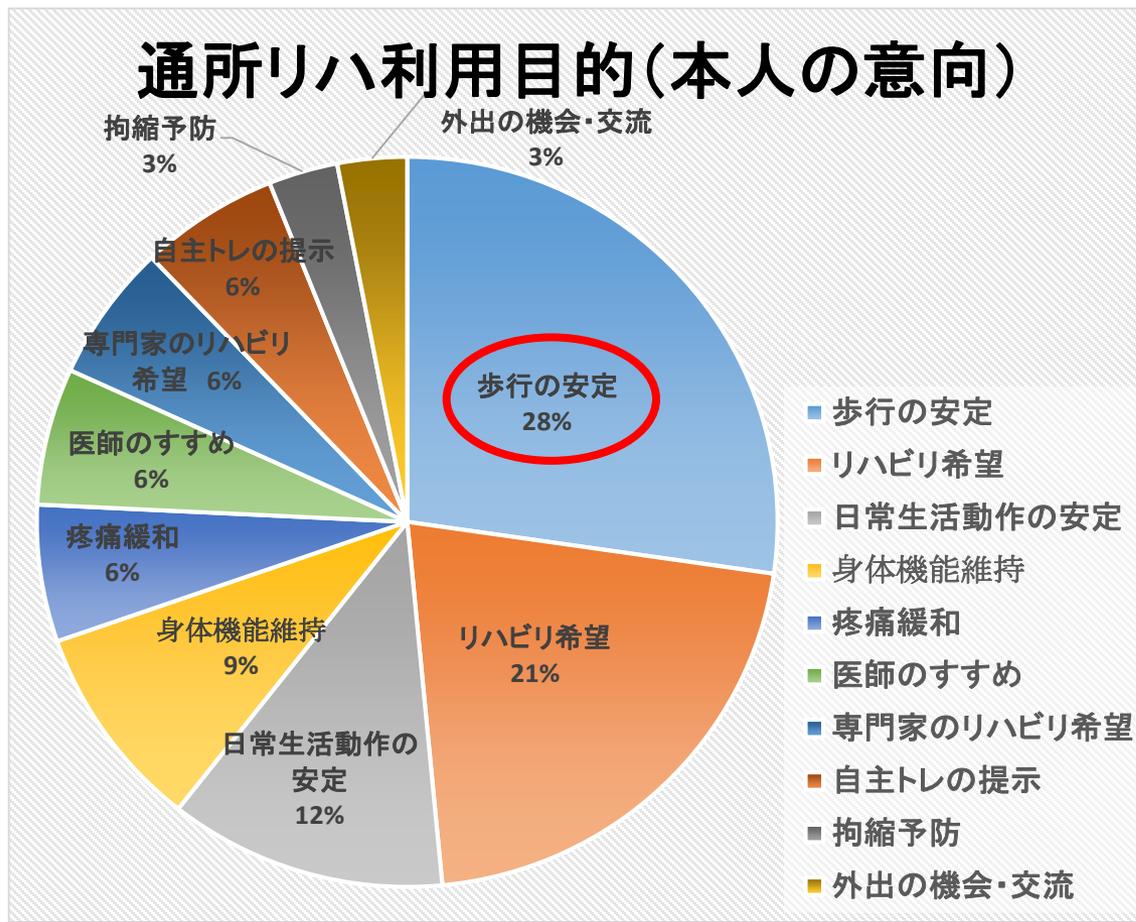


# 短時間通所リハビリテーション 来年度の取り組み ～質の向上を目指して～

作業療法士 清水美穂

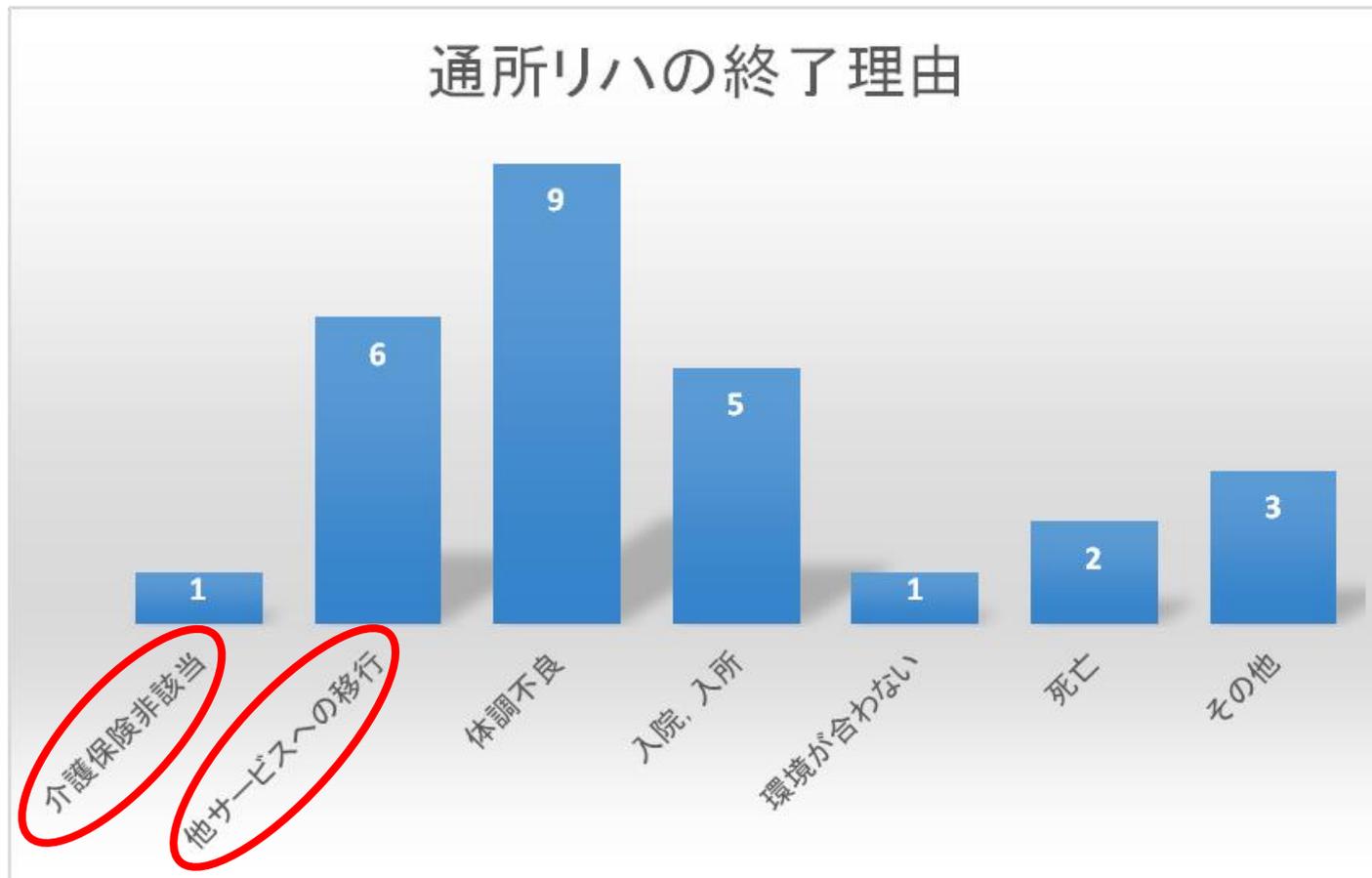
# 短時間通所リハの現状①

- 利用者数 82名（入院・休止中の2名を含む）
- 平成25年1月～11月までの新規利用者19名
- 退院時に利用が決まっていた利用者は3名



# 短時間通所リハの現状②

- 平成25年1月～11月に通所リハを終了された利用者数は27名



# 現状のまとめ

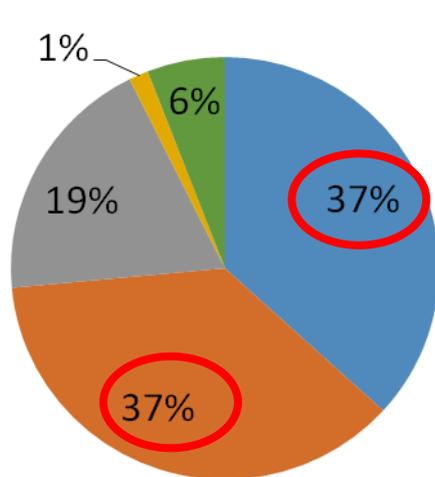
- 利用目的は、「歩行の安定」が多い
- 新規利用者のうち、退院時に利用が決まっていた利用者は3/19名だった.
- 退院後、機能低下してから専門的なリハビリを希望し利用される方が多い
- 終了理由は、介護保険非該当となった方は1名、他サービスへの移行ができた方は6名だった

短時間通所リハの役割を果たせているのだろうか

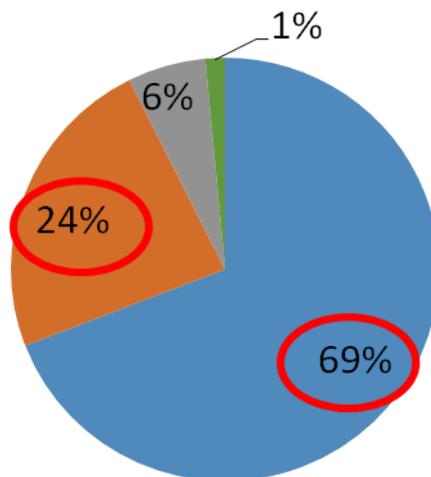
# 利用者アンケートより

- 回答者：73名／利用者数83名 ※H24.10

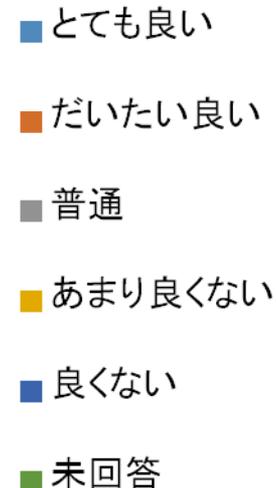
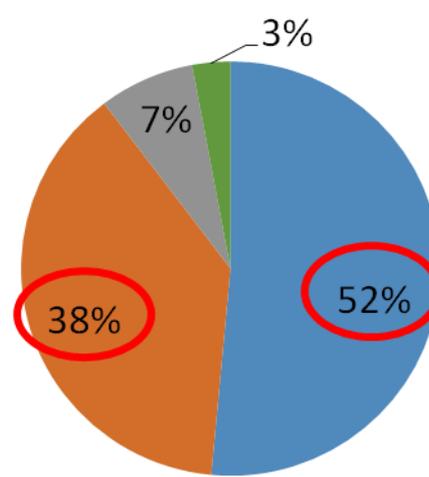
①リハビリの内容



②接遇について



③日頃の関わり



全ての項目において、「良い」「だいたい良い」と答えた利用者は7割以上だった

利用者には満足していただいているようだが

利用者にさらに満足していただくためには・・・

**スタッフのモチベーションと満足度  
重要!!**

# スタッフの満足度について

- 職業性ストレス簡易チェック表を用いて調査した
- 対象：リハスタッフ11名，ケアスタッフ7名の計18名

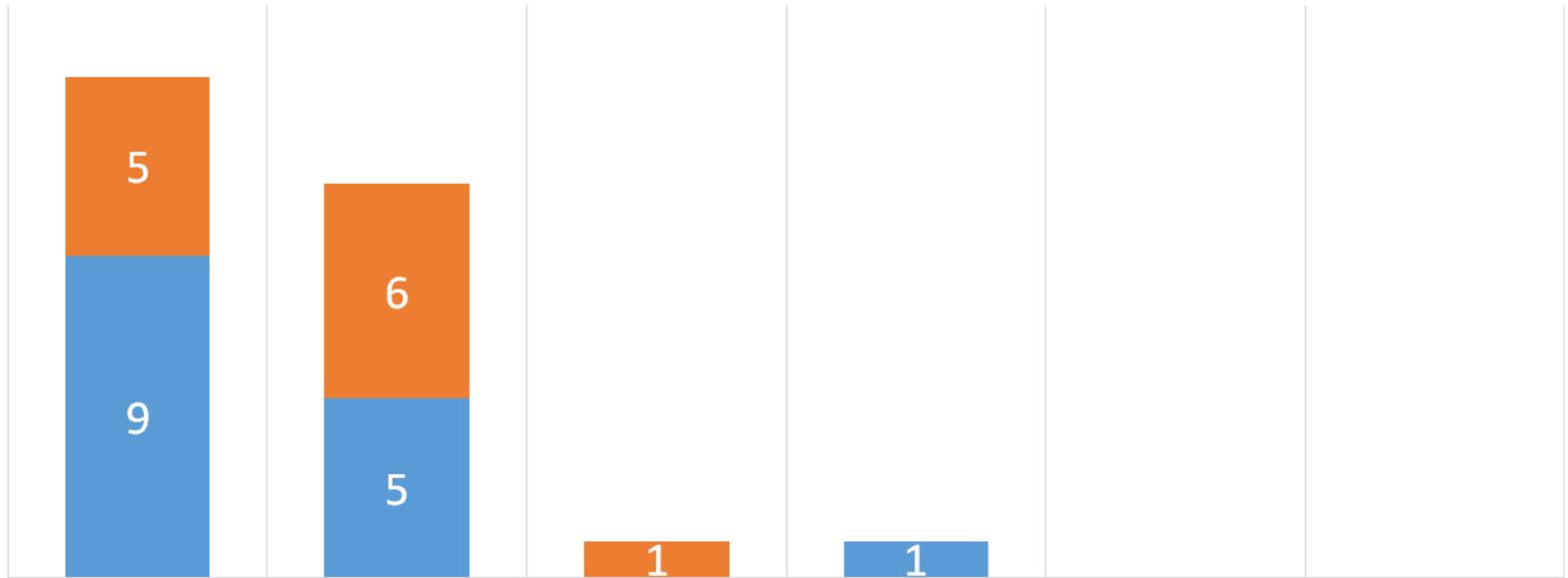
仕事の負担度	7(項目)
仕事のコントロール度	3
仕事での対人関係	3
仕事の適合性	3
心理的ストレス反応	18
身体的ストレス反応	9
職場作業環境	1
仕事の満足度	1

# 結果①

## 職業性ストレス簡易チェック表

■ リハスタッフ   ■ ケアスタッフ

(人)



仕事の負担度

仕事のコントロール度

仕事での対人関係

仕事の適合性

心理的ストレス反応

身体的ストレス反応

## 仕事の負担度

- Q1. 非常にたくさんの仕事をしなければいけない
- Q2. 時間内に仕事が処理しきれない
- Q3. 一生懸命働かなければならない
- Q4. かなり注意を集中する必要がある
- Q5. 高度の知識や技術が必要な難しい仕事だ
- Q6. 勤務時間中はいつも仕事のことを考えていなければならない
- Q7. 体を大変よく使う仕事だ

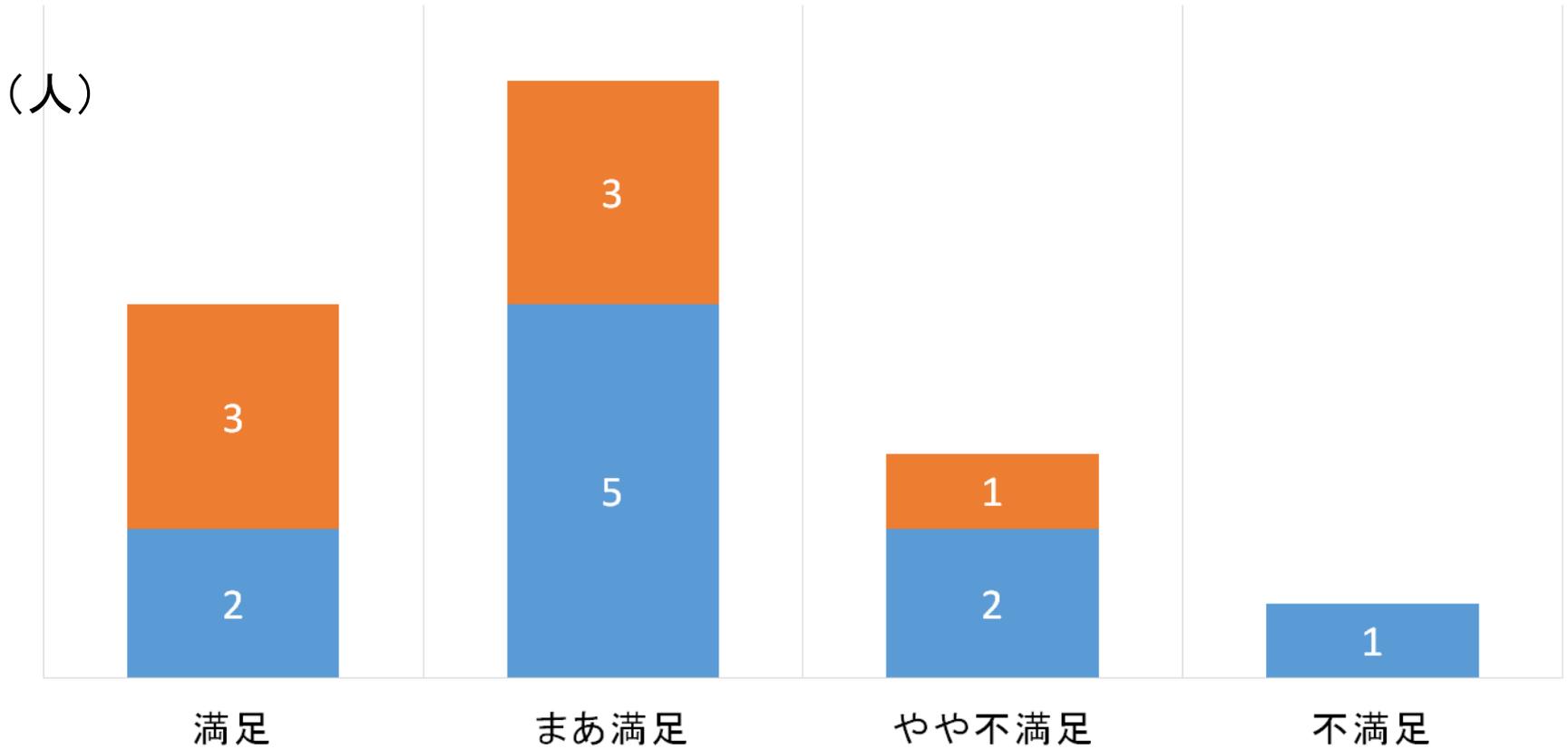
## 仕事のコントロール度

- Q8. 自分のペースで仕事ができる
- Q9. 自分で仕事の順番・やり方を決めることができる
- Q10. 職場の仕事の方針に自分の意見を反映できる

# 結果②

## 仕事に満足だ

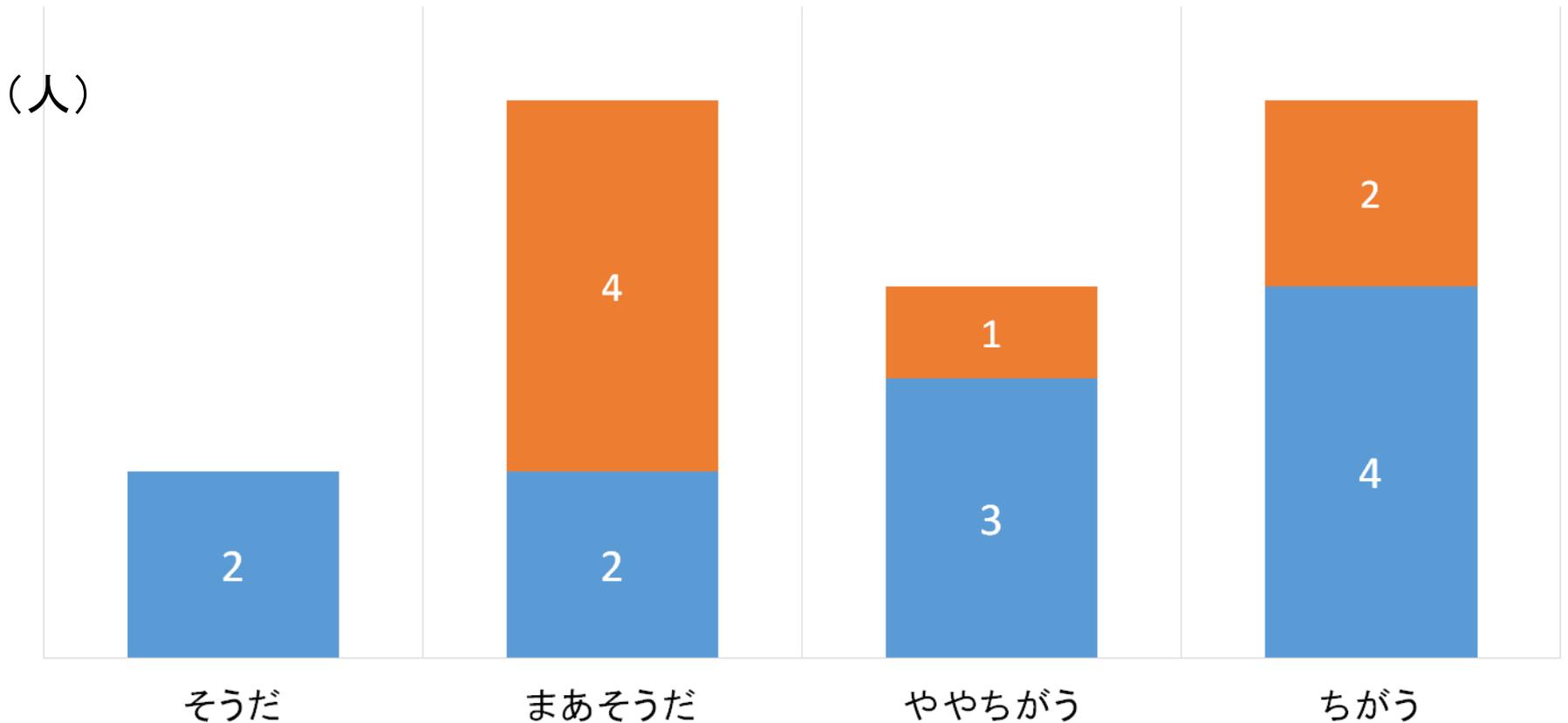
■ リハスタッフ ■ ケアスタッフ



# 結果③

## 私の職場の作業環境はよくない

■ リハスタッフ ■ ケアスタッフ



# ストレスチェックについての考察

- 仕事の負担度では78%，仕事のコントロール度では61%のスタッフがストレスを感じていた。
- 仕事に対しての満足度は高い傾向ではあるが「やや不満足」「不満足」と答えたスタッフは4/18名いた
- 作業環境において、「よくない」と感じているスタッフは8/18名いた

短時間に多くの仕事を行うこと，狭いスペースで安全面に配慮しなければいけないことで集中力を必要とし，ストレスを感じやすい

# スタッフの満足度を上げるためには

- 通所リハでの関わりを通して…

利用者の生活の質が向上し、満足していただけることがスタッフのモチベーションとなる

## 来年度の目標：質の向上

質…利用者の生活の質(QOL)

「サービスの質」はもちろん、

「リハビリの質」の向上が必要

# リハビリの質：個別リハビリ

## 【問題点】

- 内容がマンネリ化している
- 実際に利用者の生活にどのように結びついているのかがわかりにくい
- 時間が足りない

## 【解決策】

- より生活に直結した目標設定を行うため、事前面接でADL評価を強化する。その情報を用いて相談員とリハスタッフでの新規利用者のカンファレンスを行い、具体的な目標設定と介入内容を検討する

# リハビリの質：環境

## 【問題点】

- 限られた環境でのリハビリが大変である
- 転倒する危険性が高い環境である
- 歩行に対する希望が多いが歩行練習の環境が整っていない

## 【解決策】

- 限られたスペースでのリハビリを工夫する
- 安心して安全なリハビリができる空間作りを検討する
- 平行棒などのリハビリ用具を充実させる

# 今後の課題

- 利用者のQOL向上を目指した支援を行っていくために、利用者の満足度、スタッフの満足度について定期的に調査していく
- 地域における、短時間通所リハの役割について考えていく